

年度	2026年度
試験日	2026年2月19日(木)
学部	教育学部
入試制度	一般選抜(C方式)
試験科目	総合問題(社会科)

出題意図及び解答例(解答のポイント)

【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

■出題意図

早稲田大学教育学部の一般選抜では、①教科に関する確かな基礎学力と②「教える・伝える力」の基盤となる高い論理的思考能力と言語運用に関する能力を評価・判定します。

総合問題(社会科)では、資料を読み解いたうえで、読解力・思考力・文章力ならびに教育への関心を問う問題から入学後に必要な学力を総合的に評価・判定します。

■解答例(解答のポイント)

[I]

問1 一義的な解答が導き出せないため、解答のポイントをご確認ください。

<解答のポイント>

資料にある、宝塚歌劇団に関係するいじめやパワハラ問題という事例の意味を理解し、表面的には「非政治」と見なされるエンタメのイベントであっても、政治・社会問題と無縁ではないことを読み取れているかを評価する。

そこから実際に、現実社会に対する自らの視座を試し、上記と同様の関係にある「表面的に見れば非政治的なものごと」と「政治・社会問題」との組み合わせを具体的に見つけ、その意味を展開することのできる視点・発想・記述の力をみる。

この議論の先には、「政治的」あるいは「政治的中立」という概念も曖昧で恣意的なものとなりえるという資料I全体の背景を踏まえて考察・記述できることがより望ましい。

問2 B

問3 一義的な解答が導き出せないため、解答のポイントをご確認ください。

<解答のポイント>

資料Iは、公共団体から「政治的」として拒否された表現活動の例を示しているが、その問題を考える際の軸は、たとえ当初意図した場所で表現できずとも「どこかで何らかの形で表現できればよい」というものではないことを踏まえることが求められる。すなわち、仮に表現自体ができたとしても「政治的」とされなかった表現と比べ不利・不本意な条件を甘受せざるを得ないとなると、結局抑圧を受けていることになる、という軸を読み解いているかをみる。

そして、下線Xのケースにおいては特に、「政治的か否か」の判断という形態のもと、実際は「政府見解に従う意見か反対する意見か」での区別になっている、と論じている。これが先ほどの軸と重なり、すなわち政府に反対することで抑圧を受けるという問題に帰する——という論理をつかめるかをみる。

その上で、制限字数を十分に活用し、それがなぜ問題であるかという自らの考えを説得力をもって論じ、分かりやすく表現できる力を評価する。

[II]

問1 一義的な解答が導き出せないため、解答のポイントをご確認ください。

<解答のポイント>

2つの軸により4類型が作られていることを踏まえ、特に社会統合政策と多文化主義政策とのあいだの対照を想定できるかどうかをみる。文中の「私はこの4つだと社会統合政策に賛成なのですが、思いつく懸念もないわけではありません。この政策で『期待されること』や多文化主義政策で『懸念されること』を裏返して考えてみれば、いくつかありそうです。」という発言をヒントにして推察しながら、それを自分の言葉で手際よく表現できたかどうかを評価する。

問2 一義的な解答が導き出せないため、解答のポイントをご確認ください。

<解答のポイント>

「日本社会にとって外国人政策のロールモデルは存在しない」という主張、そして「規制と共生は必ずしも相反しない」という主張が中心にあるものの、様々な立場に配慮を効かせているため単純化しては要約しにくい資料Ⅱを、各政策に「期待されること／懸念されること」をめぐる整理作業を踏まえて立体的・総合的に理解することができているかどうかを評価する。特に、自分の中の「気づき」や理解の精細度の向上を梃子にしながら、資料Ⅱの主張への自身の見解、当初の自分の意見などについての維持や補完、修正ができたことを明快に示す文章表現力において評価する。